

降雨・日照不足による農作物への影響

平成 29 年 8 月 18 日
 農業総合センター
 専門技術指導員室

気象庁の週間天気予報によると、8月16日から22日まで、向こう一週間は気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の降る日が多い見込みです。8月上旬から平年より日照が不足していることに加えて、今後も降雨と日照不足が予想されますので、以下に、農作物への影響と考えられる対策についてまとめたので、ご活用願います。

1 普通作

作物名	生育ステージ	作柄状況
<p>水稻</p>	<p>早生:登熟後期 期~成熟期 中生:登熟初中 ~後期</p>	<p>「あきたこまち」は、出穂が平年より2日早くなった。早場米地帯では収穫が始まっている。「コシヒカリ」の出穂は、全県で平年より3日早くなった。稈長が長くなったところでは、一部倒伏が見られる。</p> <p>現状では降雨・日照不足により、成熟期が予測より若干遅くなる可能性があるが、他は特に影響はない。今後降雨・日照不足が長引く場合は、千粒重や品質への影響が懸念される。</p> <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「あきたこまち」など早生品種については、やむをえず高水分籾を収穫する場合、損傷粒の発生がないように、こき胴の回転数を遅くする。 2 「コシヒカリ」では出穂後 30 日ごろまで、落水せず間断灌漑を励行する。 3 7月下旬現在、水田内における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数は平年より多いため、圃場をよく観察して防除を実施する(病害虫発生予察注意報第2月号参照)。 4 いもち病の発生は少ない状況であるが、ほ場を観察し病斑が上位葉まで進展している場合は防除を徹底する。
<p>大豆</p>	<p>生育初期(~開花期)</p>	<p>現時点では多雨と日照不足による生育への影響はないが、今後も多雨と日照不足が継続する場合は、徒長や生育量の増大による倒伏、着莢不良、粒の肥大不良、紫斑病、里のほほえみおよび納豆小粒におけるべと病の発生等が懸念される。また、平成28年は8月後半からの天候不順により県内全域で葉焼け病が多発したので今後の経過に注意が必要である。</p> <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 湿害を回避するため、排水に努める。 <p>病害の発生状況に注意し、防除を徹底する。</p>

ソバ	播種期	<p>播種適期は、県北地域が 8 月 10 日～20 日、それ以外の地域が 8 月 20 日～27 日である。</p> <p>(対策)</p> <p>1 播種にあたり明渠などの排水対策を行ったうえで、適期播種に努める。</p>
----	-----	---

2 野菜

作物名	生育ステージ	作柄状況
トマト	(抑制) 大玉, ミニ 生育～ 収穫開始期	<ul style="list-style-type: none"> ・抑制の大玉, ミニトマトは軟弱, 徒長気味に生育している。果実の着果が悪く, 色づきも遅い。 ・大玉, ミニ共に病害(斑点病, 灰色カビ等)が散見される。 <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ハウスの遮光資材を外して, できるだけ日を当てるようにする。 2 過剰な灌水を避け, 葉かきを行い過繁茂や徒長を避ける。 3 予防剤を定期的に散布する。
露地ナス	(トンネル) (露地) 収穫期	<ul style="list-style-type: none"> ・露地ナスは, 果実の着果, 着色, 肥大がやや悪い。出荷量はやや減少傾向にある。 ・病害(灰色カビ等)の発生もあり, 果実の傷みが一部圃場で見られる。 <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 過剰な灌水を避け, 葉かきを行い過繁茂や徒長を避ける。 2 予防剤を定期的に散布する。
イチゴ	育苗期	<ul style="list-style-type: none"> ・軟弱徒長気味に生育しており, 平均して苗が細い。一部圃場では病害(炭疽病, 疫病)の発生がみられるが, 苗が不足するような状況ではない。 <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ハウスの遮光資材を外して, できるだけ日を当てるようにする。 2 サイドの換気部分を広くし, 十分な換気を行う。 3 過剰な灌水を避け, 十分な換気により, 葉やクラウンが濡れている時間を少なくする。予防剤を定期的に散布する。葉かきを行い過繁茂や徒長を避ける。
キュウリ	(抑制) 生育期 ～収穫開始期	<ul style="list-style-type: none"> ・定植後軟弱徒長気味で, 生育が遅れている。 <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 過剰な灌水を避け, 過繁茂や徒長を避ける。 2 予防剤を定期的に散布する。

ピーマン	(抑制) 収穫期	<p>・草勢が低下し落花が多く、肥大に係る日数がかかることから出荷量がやや減少傾向にある。</p> <p>(うどんこ病やアザミウマ類の発生が見られるが、定植後から発生しているため天候の影響とは言い切れない。)</p> <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 適期収穫を心掛け、草勢を適切に保つ。 2 草勢にあった適切な整枝誘引を行う。 3 予防剤を定期的に散布する。
アールスメロン	生育～収穫期	<p>7月下旬以降に交配、9月中旬以降出荷のメロンは天候不良の影響で着果・肥大がやや悪く、小玉傾向になる見込み。目立った病害虫の発生は無い。</p> <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 過剰な灌水を避け、過繁茂や徒長を避ける。 2 予防剤を定期的に散布する。
ダイコン	播種期 (夏まき)	<p>播種を行ったものは、順調に発芽している。降雨によって、播種が行えないところがある。</p> <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 軟弱徒長を防止するため、間引きを早めに行う。 2 明渠等排水対策を講じる。
ニンジン	播種期 (夏まき)	<p>播種を行ったものは、順調に発芽している。</p> <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 軟弱徒長を防止するため、間引きを早めに行う。 2 明渠等排水対策を講じる。
ホウレンソウ	播種～収穫期	<p>収穫が近いものは軟弱徒長し、株張りが弱いため出荷数量は少ない傾向にある。生育初期のものは順調に生育しているため、今後は出荷量の回復が見込まれる。</p> <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 灌水量を控えめにする。特に、収穫間近なものは水切りを行い、収穫時に水分過多にならないようにする。 2 間引きを早めに行う。
ミズナ	播種～収穫期	<p>収穫が近いものは軟弱徒長し、株張りが弱いため出荷数量は少ない傾向にある。生育初期のものは順調に生育しているため、今後は出荷量の回復が見込まれる。</p> <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 灌水量を控えめにする。特に、収穫間近なものは水切りを行い、収穫時に水分過多にならないようにする。 2 間引きを早めに行う。

チンゲンサイ	播種～収穫期	<p>生育遅延がみられる。やや軟弱徒長気味で、葉色が薄い。排水性が劣る圃場では、病害の発生がみられる。また、気温が平年より低く推移していることから、センチュウ類の発生が目立つ。出荷量は作付けの減少もあるが、少ない。</p> <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 灌水量を控えめにする。特に、収穫間近なものは水切りを行い、収穫時に水分過多にならないようにする。 2 換気を強くする。特に、熱がこもる場合は、循環扇等で強制的に換気を行う。
ネギ	夏ネギ:収穫期 秋冬ネギ:生育期	<p>夏ネギは降雨の影響で収穫作業が遅れ、出荷量が減少している。天候が回復すれば、出荷量は増加する見込みである。</p> <p>秋冬ネギは順調な生育であるが、一部で病害の発生がみられる。</p> <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 明渠等排水対策を講じる。 2 天候が回復してから、薬剤散布を行う。 3. 肥料の流亡があるときは、葉面散布や追肥を行う。
レンコン	生育～収穫期	<p>(5月に日照不足の影響で)ハウス、床立ち及び早掘りで肥大がやや劣っているため、出荷量は少ない。天候の回復が遅れると、さらに出荷量の減少が続く可能性がある。</p> <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 褐斑病の発生が予想されることから、予防的に薬散を行う
かんしょ	生育～収穫期	<p>地上部の生育には影響がみられない。目立った病害虫の発生は無い。</p> <p>悪天候で掘り取り作業が遅れている。</p>

3 果樹

作物名	生育ステージ	作柄状況
ナシ	果実肥大期～収穫期	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫期の「幸水」では、果皮色の進みがやや不良であることから収穫期がやや遅れぎみ、それにともない果肉がやや軟らかい傾向も見られる。 ・今のところ、降雨、日照不足による糖度等の低下は見られない。 ・今後、この天候が長引くと、中晩生品種の果実品質への影響が懸念される。 <p>(対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 曇雨天が続く場合、病害の発生に注意を払い、病害虫参考防除例に準じて、雨の合間を縫って確実に防除を行う。また、病害虫発生予察情報を参考に病害虫の発生、被害防止に努める。薬剤散布を行なう際、軟弱な生育をしている場合は薬害を生じやすいので、登録の範囲内で散布濃度を低めにする等の配慮をする。 2 多雨により湛水した場合には、速やかに溝掘りして園外へ排水する。

ブドウ	着色期 ～収穫期	<ul style="list-style-type: none"> ・雨よけ作型の「巨峰」では、果皮色の着色がやや不良であり、樹によっては若干の裂果も見られる。 ・今後、この天候が長引くと、以後収穫期となる品種の果実品質への影響が懸念される。 (対策) ナシに準じる。
クリ カキ	果実肥大期	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ降雨、日照不足による影響はみられない。 (対策) ナシに準じる。

4 花き

作物名	生育ステージ	作柄状況
キク(コギク)	9月咲→花芽発達期	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのところ生育に大きな影響はないが、日照不足が続くと開花の遅れや花数の減少が懸念される。 ・病害虫の発生は特に多くないが、白さび病の発生が懸念される。 (対策) 1 病害発生に注意し、適期防除に努める。
バラ(周年出荷)	生育期	<ul style="list-style-type: none"> ・開花が若干遅れているが、今のところ生育に大きな影響は見られない。今後寡日照状態が続くと開花の遅れや軟弱徒長の発生が懸念される。 ・急な晴天時には葉や花弁焼けの発生に注意が必要である。 (対策) 1 晴天時には焼け防止のため遮光を実施する。 2 養液のバランスを崩さないように、養液の分析を実施する。
グラジオラス	8月作型:開花期 9月作型:生育期 10月作型:生育初期	<ul style="list-style-type: none"> ・特に影響は出ていないが、寡日照・多湿状態がさらに続くと軟弱徒長や病害発生による品質低下が懸念される。また、生育初期の10月作型では日照不足により花芽が枯死し、採花率の低下が懸念される。 ・曇雨天が続いた後の晴天時の穂焼け発生に注意が必要である。 (対策) 1 立枯れ性病害や赤斑病、ボトリチス病などの病害のため薬剤の予防散布を実施する。また、排水の悪いところでは排水性を改善する。 2 晴天が予想される場合は遮光などの対策を実施する。